

Risk Management Report

〔防災調査の現場から 第4回〕

皆様が抱えているさまざまなリスクに対し、最適な保険をご提供するとともにリスクそのものを軽減するための解決策をご提案しています。今回は“防火区画”についてです。

防火区画とは

○火災・煙の被害を一定範囲内に留め、それ以上拡大しないように防火壁により区画された空間のことをいいます(建築基準法第2条他)。

高層ビルやデパート等、人が多数集まる建物で火災が発生した場合に、被害の最小化を図るため建築基準法及び関連法案により設置された空間(基準)が防火区画です。

【対象建物】以下の2つの建物に設置基準が定められています。

- ・耐火建築物…主に鉄筋コンクリートで造られた建物
- ・準耐火建築物…主に不燃構造材を使用した1時間耐火、あるいは外壁耐火45分間の建物

○防火区画の種類…4つの種類があります。

- ①面積区画…床面積 1,500 m²以内で区画(スプリンクラー設備の場合は 3,000 m²以内)
- ②高層階区画…11 階以上の部分 100 m²以内(下地内装とも準不燃 200 m²、不燃以上 500 m²)
- ③竪穴区画…階段、エレベーター、吹抜けの部分进行他の部分と区画する。
- ④異種用途区画…劇場や映画館、病院等管理形態が異なる場合には、防火区画を設ける。

○防火区画(防火壁)の貫通部分の措置

〔防火戸〕

建築基準法第26条及び第64条

防火壁の開口部には一定基準を満たした防火戸(扉)を設置する

〔貫通部の埋戻し〕

建築基準法施行令第112条第15項

防火壁を配管等が貫通する場合は、不燃材による埋め戻しが必要



要注意！

防火区画が不十分な場合

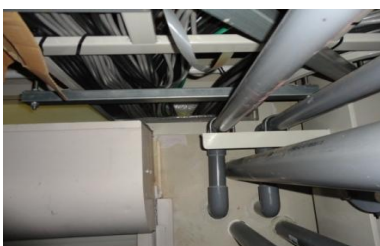
次のような事は、ありませんか？

○火災が発生した場合には、延焼拡大する可能性があります。

〔防火戸〕の前に物品を放置…出火時、防火戸が閉鎖しようとしても障害物により閉鎖出来ず



〔貫通部の埋戻し〕無し…貫通部から合成樹脂配管や配線ケーブルを伝わり延焼拡大する



防火区画が関連する延焼拡大事例

〔主な火災事故〕

- ・1972 年千日デパート火災(死者 118 名)
→工事業者煙草不始末
- ・1973 年大洋デパート火災(死者 104 名)※1
→煙草不始末 or 放火
- ・1982 年ホテルニュージャパン火災(死者 33 名)※2
→煙草の不始末
- ・2003 年栃木県ブリジストン栃木工場(損害額 350 億円)
→無届け溶接作業中の火花、立会人なし
- ・2012 年福山プリンスホテル火災(死者 7 名)※3
→事務所から出火(違法建築物)



【火災延焼、拡大要因】

- ※1…出火時、粉末消火器は薬剤が放出されず、屋内消火栓は水圧が足りず、防火シャッターもシャッター前に積上げられた座布団によって閉鎖せず、3F 寝具売り場に延焼拡大した
- ※2…スプリンクラー未設置(3F 以上)並びに防火戸が閉鎖されず、8 階以上は防火区画も無く、ベニヤ板や穴の開いたブロックで仕切っていた為、火の回りが速かった
- ※3…階段や吹抜けの防火扉が密閉されず、上の階に煙が充満した

“決められたことは、キチッと守り安全第一で！”